

マチュア世代の働く女性のセカンドキャリアについての意識調査Ⅱ

西村 美奈子、遠藤 佳代子

Awareness Survey on Post-Retirement of Mature Age Working Women Ⅱ

Minako Nishimura, Kayoko Endo

均等法から 30 年がたち、男性と同等に働く女性が層を形成した初めての世代がこれから定年を迎える。一方でこれまで「定年退職」と言えば男性のマイルストーンであり、女性の定年についての研究は少ない。女性たちがこれからの人生のセカンドキャリアをどう捉えているのか、昨年実態調査及びニーズ検討を行い、今年度はそれを深堀した。尚、本報告は、昨年の報告（本調査のアンケート設計まで）の継続報告と位置付ける。

1. 実態調査とニーズ発掘（昨年の研究概要）

1.1. 先行研究と課題意識

「女性の定年」については昨年あたりからにわかに注目を浴び始めた。これは 1986 年より施行された「男女雇用機会均等法」から 30 年が経過したことによるものであり、筆者たちの研究が時代にあったものであると考えられるが、これまでは対象者の数が少ないことから研究テーマとして取り上げられることが少なく、先行研究はわずかであった。

その中で、筆者たちが特に注目したのは、男性中心社会の中で男性以上の働きを示すことで地位を確保してきた女性の場合は、男性よりも定年に伴う役割喪失によるストレスとなる可能性がある（袖井 1988）という見解と、これからシニアになる女性はこれまでのシニア女性のように自然には地域社会に溶け込んでいかないかもしれない、「女性は大丈夫」とは必ずしも言えないのではないか（倉重 2015）という問題提起である。

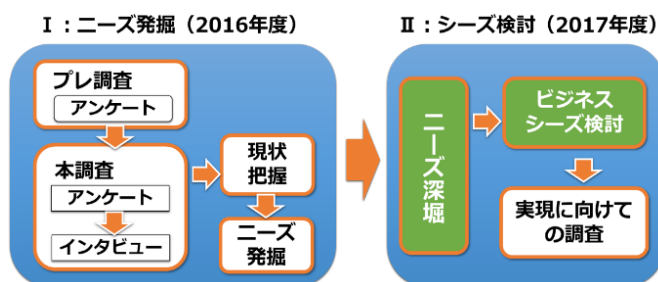


図 1 研究の進め方（筆者作成）

「女性の定年」と「男性の定年」とは何か異なる点があるのではないかと。さらに、長年、企業の中で男性同様に責任ある仕事に従事してきた女性たちは、これまでの一般的なシニア女性像とは違う新しいクラスタになり得、そこに何かこれまでにないサービス

が求められているのではないかという点を意識しながら研究を進めている。尚、2016 年度をニーズ発掘フェーズ、2017 年度をシーズ検討フェーズと位置付ける（図 1）。

1.2. 本調査結果

プレ調査（2016 年 7 月実施）において、「働く女性たちは将来（定年退職後）に向けて不安を感じている」ということが見えてきたので、新たに「将来に対して不安があるのは将来像とそこへ向けてのシナリオが描けないから」ではないのかという仮説をたて、この仮説を検証するために、何に対して、どういう不安があるのか（不安の中身と具体化）と、どう解決したいのか（不安解消のための解決策）を明らかにする目的で本調査を実施した。

1.2.1. 本調査概要

- 調査対象：40 代～60 代の企業で働く女性
- 調査方法：WEB によるアンケート、未記名回答
- 調査期間：2017 年 1 月～2 月（回答期間は約 4 週間）
- アクセス数：177、有効回答数：133（回答者プロフィールは図 2 のとおり）

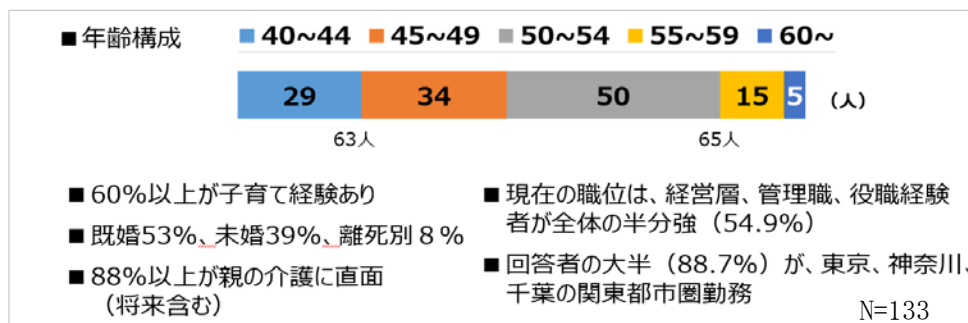


図 2 回答者プロフィール(筆者作成)

アンケートの設問は大きく以下の 5 項目からなる。

1. 不安と将来像との関係性
2. 不安の中身
3. 3 要素と将来像との関係
4. 不安と属性の関係
5. 3 要素の提供方法とニーズ

（注）3 要素とは・・・
プレ調査の結果から、要素として以下が必要と仮定
①モデル（ロールモデルとしての事例）
②知識（経済、介護、健康に関する予備知識）
③自己認知（自分の能力、興味の把握）
本調査でその必要性を検証する。

1.2.2. 不安と将来像との関係性

まず始めに、不安と将来像との関係性について明らかにするために、いくつかの設問を行った。

(1) 将来に対する不安

「将来（定年後）に何か不安がありますか？」(問 8) というシンプルな設問に対しては、7 割以上が「不安を感じている」と答えている（図 3）。

特に 40 代後半で多いのは、もうすぐ 50 歳という節目になるということが無意識に不安に結びついているのではないかと推察される。



図 3 将来に対する不安(筆者作成) N=133

(2) 具体的な計画・将来像

「定年後、どんな生活を送るのか具体的な計画はありますか？あるいは将来像が描けていますか？」(問 10) という設問で、具体的な計画がある人は全体で 1 割もない（図 4）。

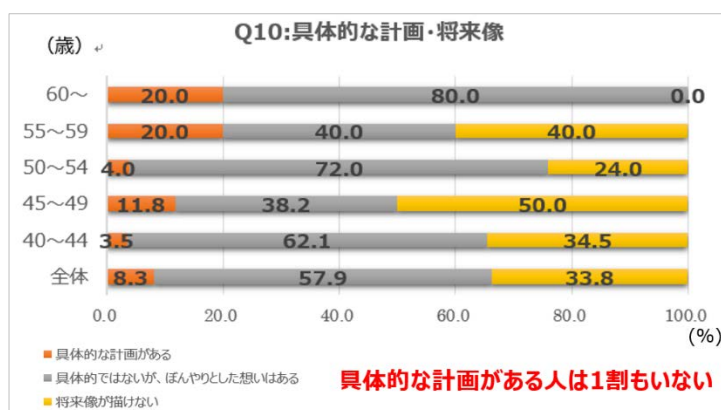


図 4 具体的な計画・将来像(筆者作成) N=133

(3) 定年後に向けての準備

さらに、「定年後に向けて、何か準備を始めていますか？」(問 11) では、40 代は「まだ考えていない」、50 代は「準備をしなければと思ってはいるが、なかなか手が付けられていない」、60 代は「準備を始めている」と、年代による違いが見られた（図 5）。

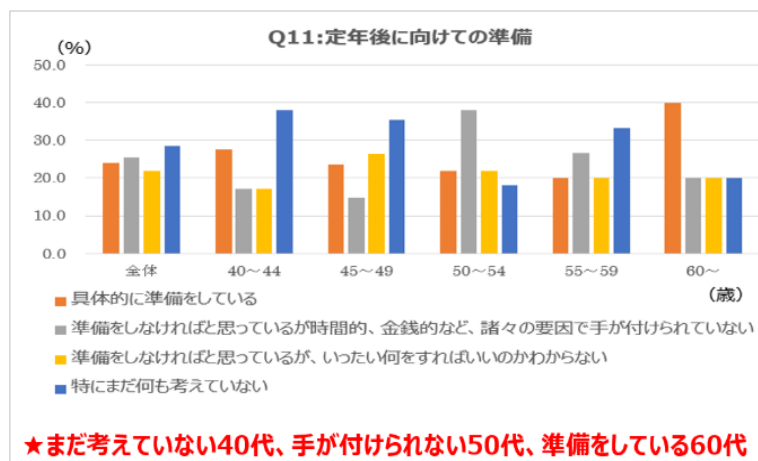
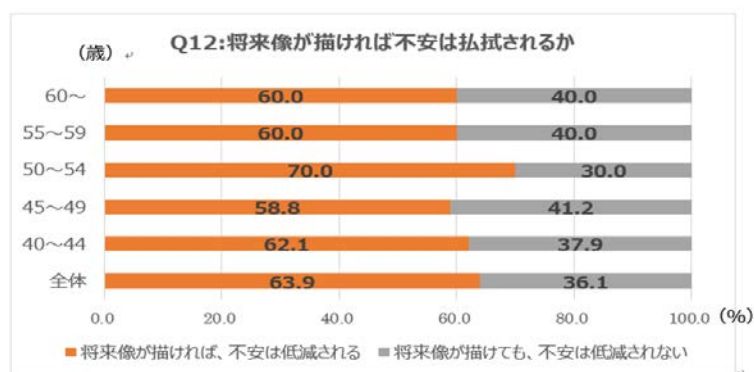


図 5 定年後に向けての準備(筆者作成) N=133

(4) 将来像が描ければ不安は払拭されるか

次に、「定年後の将来像が描ければ、将来への不安は払拭されると思いますか？」(問 12) という設問については、6 割以上が「払拭される」と答えている (図 6)。



★ 6割以上が「将来像が描ければ、不安が払拭される」 N=133

図 6 将来像と不安(筆者作成)

(5) 将来への不安と定年後の計画・準備の関係性

問 12 の「将来像が描ければ、不安が払拭されるか？」という単純な設問には 6 割が「払拭される」と答えていたので、それを裏付けるべく、問 8、問 10、問 11 について相関関係を整理してみた。定年後の計画や定年後の準備ができていないグループそれぞれに、将来への不安が「ある」「ない」と答えた人が何人いてその割合がどのくらいかを調べたところ、明らかに計画や準備ができていないグループほど将来に不安を感じる人が多いということがわかり (図 7)、問 12 の設問の回答結果が裏付けられた。

Q8: 将来への不安	Q10: 定年後の計画			Q11: 定年後に向けての準備			
	具体的計画あり	ぼんやりとした想い	将来像描けない	具体的に準備中	手が付けられない	何をすべきか不明	何も考えていない
不安あり 98 人	6 人 54.5%	50 人 64.9%	42 人 93.3%	20 人 62.5%	27 人 79.4%	24 人 82.8%	27 人 71.1%
不安なし 35 人	5 人 45.5%	27 人 35.1%	3 人 6.7%	12 人 37.5%	7 人 20.6%	5 人 17.2%	11 人 28.9%

★ 計画や準備ができていないグループほど、不安を感じる人が多い N=133

図 7 将来への不安と定年後の計画・準備の関係性(筆者作成)

このことから、「将来像とそこへのシナリオが描け、具体的な準備を始めることができれば、将来についての不安は少なくとも軽減できる」と結論付けられる。

1.2.3. 不安の中身

次に、「将来（定年後）に少しでも不安があるとしたら、どんな不安ですか？あてはまるものをすべて選択してください。（複数選択可）」（問 9）という設問で、将来への不安の中身を訪ねたところ、不安の TOP3 は、①経済的な不安 ②家族介護の不安 ③自身の健康の不安であった（図 8）。

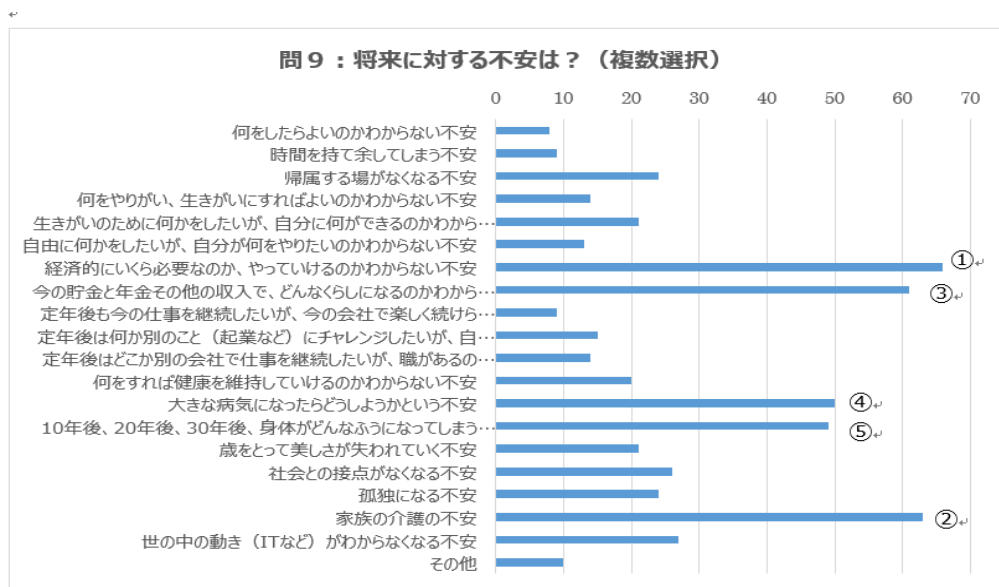


図 8 将来に対する不安の中身(筆者作成)

N=133

1.2.4. 3要素と将来像との関係

「将来像とそこへ向けてのシナリオが描けない」ことに、①モデル②知識③自己認知の3要素がどう影響を与えているのかを明らかにするためには、「定年後の将来像を描くのにあなたにとって必要だと思うことは、どんなことですか？ 必要だと思うことを選んで、あなたにとって重要なことから順に 1, 2, 3・・・と順位をつけてください。」という設問で聞いた（問 13）。複数選択を可能とした「必要だと思うこと」の TOP3 は、順番こそ違いますが不安の中身（問 9）と同じであった（図 9）。

将来像を描くのに必要だと思うことの TOP3

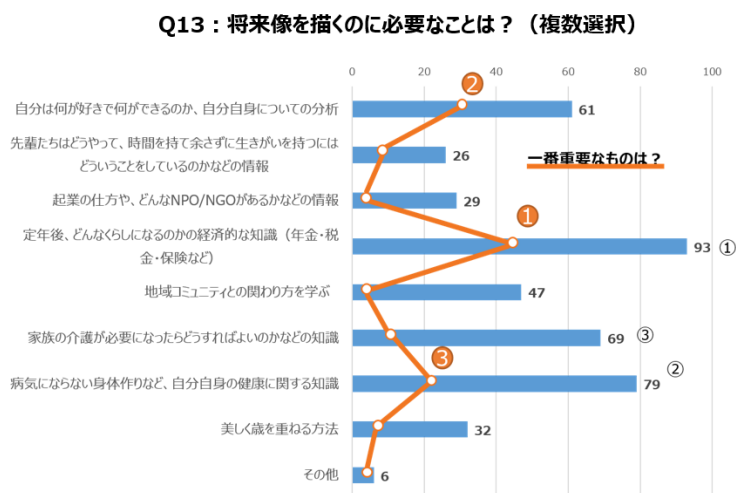
- ① 経済の知識 ② 自身の健康の知識 ③ 家族介護の知識

つまり、これら 3 項目についての自己の知識不足が不安であり知識として知っておく必要であると認識していると結論づけられる。一方で、一番必要なものに対しては、自分自身を知ることが 2 番目にあがってきた。

将来像を描くのに「一番必要」だと思うことの TOP3

- ① 経済の知識 ② 自分自身の分析 ③ 家族介護の知識

また「先輩の女性たちが、将来に向けて定年前にどんな準備をしたのかを知る機会があれば、知りたいと思いますか？」(問 14) には 78%が知りたいとの回答であった (図 10)。



Q14：先輩女性の話を聞きたいと思うか？

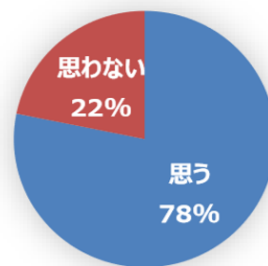


図 10 先輩の話(筆者作成)

図 9 将来像を描くのに必要なこと(筆者作成)

以上のことから、将来像を描くには ①モデル②知識③自己認知の 3 つの要素が必要であるとした筆者たちの仮定は、概ね正しいと言える。

1.2.5. 不安と属性の関係

回答者の属性、特に子供の有無、配偶者の有無が不安にどう影響しているのかを整理してみた (図 11)。

	子供あり				子供なし			
	不安あり	人数	割合	不安なし	人数	割合	不安あり	割合
既婚	不安あり	27人	62.8%	不安あり	23人	85.2%	不安あり	50人 71.4%
	不安なし	16人	37.2%	不安なし	4人	14.8%	不安なし	20人 28.6%
シングル	不安あり	6人	85.7%	不安あり	42人	75.0%	不安あり	48人 76.2%
	不安なし	1人	14.3%	不安なし	14人	25.0%	不安なし	15人 23.8%
不安あり				33人	66.0%	不安あり	65人 78.3%	
不安なし				17人	34.0%	不安なし	18人 21.7%	

※シングルには未婚と離死別を含む

不安と答えた率：子供あり<子供なし、既婚<シングル
 (子供あり+既婚)<(子供なし+シングル)<(子供なし+既婚)

図 11 不安と属性の関係(筆者作成) N=133

各属性グループの中で、将来不安があると答えた割合を比較してみたところ、子供がいて、配偶者もいる人の不安率が一番少ないのは予想の範囲であったが、いわゆる「おひとり様」がそれほどでもなく、また、「子供と配偶者のどちらの方が不安軽減に寄与するのか」については大差がなかった。

1.2.6. 3 要素の提供方法、ニーズ

将来像を描くための①モデル②知識③自己認知の 3 要素が、どう提供されることを望むのか提供方法のニーズを明らかにするため、「定年後の準備として今から参加・利用してみたいと思うものはどれですか？（複数選択可）」（問 16）という設問を実施した。全般的に WEB でのサービスと講演会のニーズが高く、また、知識以外の項目では、人によっては不要という回答もあった（図 12）。

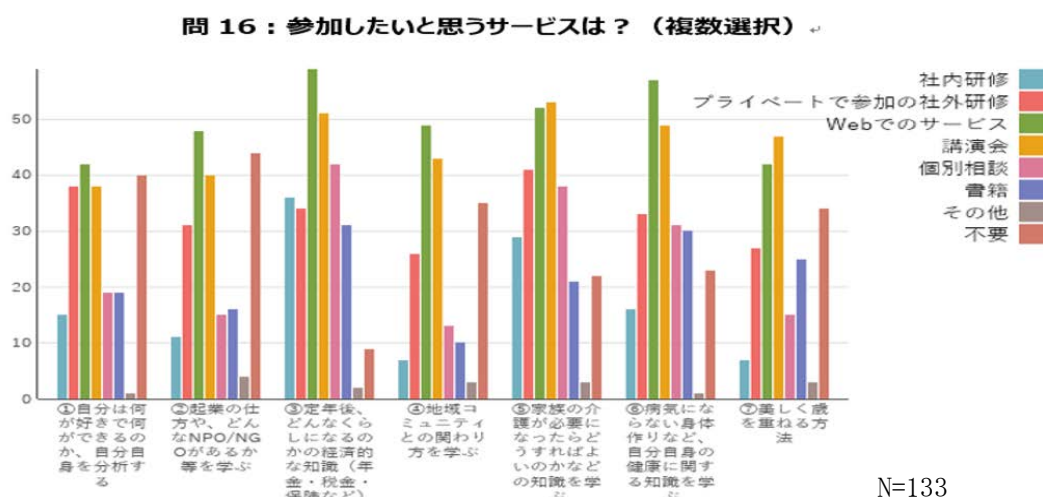


図 12 将来像を描くために参加したいサービス(筆者作成)

1.2.7. 本調査のまとめ

本調査の結果から、不安の中身は概ね①モデル②知識③自己認知 に分類でき、「将来像とそこへ向けてのシナリオが描け、具体的な準備を始めることができれば将来への不安は軽減できる」という筆者たちの仮説は正しかったと結論づけられる。また、提供方法としては WEB でのサービスと講演会のニーズが高かった。

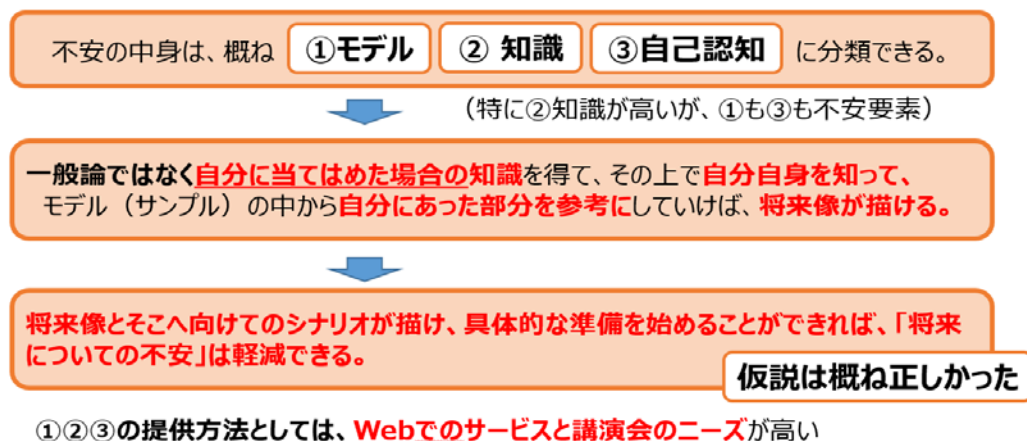


図 13 本調査のまとめ(筆者作成)

尚、比較対象として男性にも同様の調査を実施した結果、WEB に対するニーズは女性の方が高いことがわかった。これは、現役で働く女性たちの方が、時間的制約が厳しいからではないかと推測され、女性たちにとってはネットで気軽に得られる情報が男性以上に貴重であるのではないかとと思われる。

2. ニーズの深堀

2.1. 座談会の概要

本調査のデータの裏付けをとるために 2 回座談会を開催した。

- 日時 : 2017 年 5 月 27 日 (女性のみ) 6 名、6 月 1 日 (男女混合) 11 名
- 進め方 : アンケート調査結果を説明し、それぞれについて具体的な内容をヒアリングすることでターゲット層のニーズをより細かく把握した。更に男女を比べることにより、女性特有のものがあるかを探った。

2.2. 座談会から見えてきたこと

仮説から 3 つの要素を更に分解し 5 つの調査課題が参加者共通の悩みとして認識された。

参加者の共通の意見は下記の通りとなった。尚、男女の差はあまり見受けられなかった。

1) 自分探し :

- ・ 定年後に仕事があるのか、自分の市場価値を知りたい。
- ・ 自分に何が出来るのか、もっと早い段階で何かをすべきなのかわからない。
- ・ 週 2〜3 日の仕事はあるのか? 趣味などを探すには準備が必要か?

2) 経済的な問題 :

- ・ 無料、もしくはネットなどで、自分の年金や将来について問題ないか、知りたい。
- ・ 貯金をどの程度使えるのかの確信を得たい。年金制度、資産運用について知りたい。
- ・ 世界経済がどのように動いて、資産価値が変動するかなどのリスクも知りたい。
- ・ 定年後に収入を得る方法、お金になる趣味など何かあるのか?

3) 健康問題 :

- ・ 健康でボケずに長く、マイペースで仕事出来ることを望みたい。
- ・ 健康維持の方法が知りたい。 定期健診もなくなるので公的サポートを使用したい。
- ・ 75 歳を過ぎると急にガックリきて、ボケるので、その防止を考えたい。

4) 介護問題 :

- ・ 親の介護が心配。もし介護になったらどうしたら良いのかわからない。

- ・ 親の介護費用負担も心配のタネ。
- ・ 実家が遠いので、介護になった場合どうするか？ 終活にも興味。

5) 先輩の話：

- ・ 苦労したり、いろいろと悩みを経験された方のお話を聞きたい。
- ・ 仕事があるのか、どういう資格を取って何をされているのか等も聞きたい。
- ・ 定年後の方が幸せの人に聞きたい。失敗談も聞きたい。

6) 男女の違い：

- ・ 熟年離婚等、パートナーとの定年後の付き合い方を考える必要がある。
- ・ 女性からすると、男性は定年するまで何も準備していないように見える。
- ・ 男性からすると、女性の方が上手に生きているので参考にしたい。
- ・ 子どものいない夫婦の社会での立ち位置（社会との接点が無くなりやすい）。

定年後については、ゆっくり週 2～3 日程度仕事があり、多少の収入と趣味などで、楽しく元気に生きていきたいという夢や希望はあるものの、その為に必要な準備が具体的にはなっておらず、不安のある人が多かった。その不安を払拭できるようなサービスを検討したい。

3. ビジネスシーズの検討

本調査ならびに座談会の結果をもとに検討し、以下の 4 つをビジネスシーズとした。

- ◆ シーズ 1：WEB メディア運営（ワンストップでの情報提供）
- ◆ シーズ 2：研修・セミナー（マチュア世代の働く女性対象のセカンドキャリア研修）
- ◆ シーズ 3：起業支援（専門家による起業・プロモーション支援、会員相互の業務支援）
- ◆ シーズ 4：WORK シェア（企業からの業務請負、各人の専門スキル活用）

まずはこのうちのシーズ 1 を具現化し、その有用性を探ることにした。内容の検討にあたっては「企業の中で男性と同様に責任ある仕事に従事してきたマチュア世代の女性たち」をペルソナとして、家族・経済・介護・仕事の状況、悩みや性格などを設定しながら、どういったことが求められているのだろうかイメージしながら進めている。

WEB サイトは Wordpress で構築し、コンテンツとしては、以下の内容を掲載する。

①モデル（ロールモデルとしての事例）

先輩方にインタビューをして記事に起こし、その経験を共有する。

②知識（経済、介護、健康に関する予備知識）

お金、介護、健康の 3 ジャンルについて、最低限知っておくべきことを掲載する。

③自己認知（自分の能力、興味の把握）

自己を客観的に分析するための手法を掲載する。

④その他、ターゲット向けの各種コラム記事

サイト URL : <http://maturewomen.jp/>



図 14 情報提供サイトの画面イメージ

4. まとめ

今年度は、昨年度の調査の分析から、ニーズの深堀、シーズの検討まで実施した。その結果、「定年後は時間的にゆとりのある仕事をしながら人生を楽しんでいきたいが、その為に必要な準備が具体的にはなっておらず、それが将来への不安を形成している」ことが明らかになった。

今後はシーズ 1 の WEB サイトを充実し、こういったコンテンツがより好まれているのかをデジタルマーケティングの手法により、調査・分析して、その後、どのようにビジネス化していくかを検討していく。

【参考文献】

1. 相川浩之（2015）高齢者消費をリードする「豊かなシニア」『日経消費インサイト』5 月号
2. 伊藤セツ 他（2004）『女性問題研究会編 定年退職と女性～時代を切りひらいた 10 人の証言～』ドメス出版
3. 岩崎博充（2014）『50 歳でも間に合う 女の老後 サバイバルマネープラン！』主婦の友社
4. 大江英樹、井戸美枝（2017）『定年男子定年女子』日経 BP 社
5. 大前研一（2004）『50 代からの選択』集英社
6. 川内由加（2013）「女性定年退職者の退職後のキャリア選択要因」桜美林大学加齢・発達研究所 老年学研究科 老年学専攻 修士論文
7. 川端美穂（2017）『アフィリエイトで稼ぐ』東洋経済
8. 岸本裕紀子（2015）『定年女子』集英社
9. 木村勝（2017）『働けるうちは働きたい 人のためのキャリアの教科書』朝日新聞出版
10. 楠木 新（2017）『定年後』中公新書
11. 倉重佳代子（2015）「これからのシニア女性の社会的つながり～地域との関わり方に関する一考察～」『富士通総研（FRI）経済研究所 研究レポート』424
12. クロワッサン特別編集（2017）『身内に介護が必要なときの手続き』マガジンハウス
13. 厚生労働省（2015）第 10 回中高年者縦断調査（中高年者の生活に関する継続調査）の概況（<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/judan/chukou15/>）2016.6.1.
14. 厚生労働省（2016）平成 28 年版「働く女性の実情」（<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/16.html>）
15. 袖井孝子（1988）「定年退職一家族と個人への影響」『老年社会科学』Vol.10 No.2
16. 徳田直子（2010）「女性定年退職者は退職後の生活において 職業経験をどのように意味づけているか」桜美林大学加齢・発達研究所 老年学研究科 老年学専攻 修士論文
17. 徳田直子、杉澤秀博（2010）「女性定年退職者の退職後の楽しみ・生きがい：現役時代の経験との関連について」『老年学雑誌』創刊号
18. 中野円佳（2014）『「育休世代」のジレンマ』光文社新書
19. 日経おとなの OFF（2016）『50 歳から始める「安心老後」準備大全』日経ホームマガジン
20. 日経おとなの OFF 特別編集（2018）『定年後 準備大全』日経ホームマガジン
21. 日経ビジネス（2016）「特集：サラリーマン終活『定年後 30 年時代』の備え方」日本経済新聞社
22. 野村浩子（2014）『定年が見えてきた女性たちへ 自由に生きる「リ・スタート力」のヒント』WAVE 出版
23. 濱口圭一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書

24. 由井義通 他（2004）『働く女性の都市空間』古今書院
25. 横田響子（2011）『女性社長が日本を救う！』マガジンハウス
26. 吉川紀子、竹内康代(2011)『54 歳のハローワーク＋アラウンド定年の就活ハンドブック』 集英社
27. リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット（2016）『LIFE SHIFT 100 年時代の人生戦略』東洋経済新報社
28. リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット（2012）『WORK SHIFT』ワーク・シフト プレジデント社